

令和3年度地域少子化対策重点推進交付金(令和3年度補正予算)実施計画書

(市町村分) 個票

自治体名

川西市

(都道府県: 兵庫県)

事業メニュー	優良事例の横展開支援事業			
区分	機運醸成の取組			
関連事業メニュー	2.2.6 その他、各地域において、結婚、妊娠・出産、乳児期を中心とする子育てに温かい社会づくり・機運の醸成に向けた、当事者及びその他の社会のあらゆる構成員の意識や行動の改革をもたらそうとする取組			
個別事業名	マイライフ デザイン事業	新規/継続 (一般財源での実施も含む)	継続	
実施期間	交付決定日	～	令和5年3月31日	事業開始年度 令和2 年度
対象経費支出予定額 ※(注)1	520,000 円			
自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け ※(注)2	<p>人口減少や少子高齢化、価値観の多様化など環境が変化している中、第5次川西市総合計画を踏まえた「総合戦略」を策定し、結婚、妊娠、出産、育児まで計画的に施策を実施してきた。取組みの成果として、子育て世帯をはじめとした30歳代が本市を転入先として選んでいる傾向がある一方で、10歳代、20歳代の転出数が多いという課題を抱えている。</p> <p>市民に住み続けてもらうため、さらには本市の強みである30歳代の転入を促進するためには、若い世代が安心して出産、子育てができる環境を整えること、少子化に対応する施策を展開していくことが特に重要である。これまで展開してきた結婚、出産といったそれぞれのライフシーンにおける直接的な支援のみならず、小中学生などを対象とした早期からの子育てに温かい社会づくり・機運の醸成を図る取組みを展開することで、市民が幸せを感じ、「住みやすいまち」「住み続けたいまち」として実感できるようまちづくりを進めている。</p> <p>少子化対策の取り組みとして、「温かい社会づくり・機運の醸成」に係るものについては、上記のうち、「総合戦略」に示す「子どもたちの成長を支えあえるまちづくり」に位置付けられる。また、本市教育振興基本計画に掲げる「地域と人との輪でつくる 育ち学び合う教育」の重点施策の1つとして位置付けている「豊かな心」の醸成に向けた取り組みにも位置付けている。本個別事業では、小学生、中学生の時期からライフプランを考える機会を設けることにより、将来の進路選択の際に就職のみならず結婚、出産、育児などのライフイベントを踏まえた生活の在り方についても総合的に考えることにつながる。</p> <p>子育てに温かい社会づくり・機運の醸成に向け、教育内容を充実させ、子どもが将来の生活を考えることができるような取組を進めている。親になるための準備教育としての「赤ちゃんとのふれあい体験」や、結婚、妊娠・出産、子育て、仕事を含めた将来のライフデザインを描けるよう「マイライフデザイン」の授業を行うこととしている。小中学生(対象者 小学校7,600人 中学校3,800人 特別支援学校15人)を対象としている。</p> <p>本個別計画では、小学生、中学生の時期からライフプランを考える機会を設けることにより、将来の進路選択の際に就職のみならず結婚、出産、育児などのライフイベントを踏まえた生活の在り方についても総合的に考えることにつながる。これらは生徒が具体的に将来を考える機会となり「温かい社会づくり・機運の醸成」に資する取組みである。</p>			
(個別事業の内容) ※(注)3	<p><個別事業における現状と課題></p> <p>本市の出生率は全国・県と比べ低い水準で推移している。主な理由として、晩婚化の進行等による未婚率の上昇に加えて、仕事と子育ての両立の負担感・子育ての負担感の増大が挙げられる。本事業は令和2年度から開始したが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ほとんどの学校が実施を見送る中、小学校2校で実践を行い、令和3年度は、小学校4校、中学校1校の実施を予定しており増加傾向にある。令和3年度についても新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、実施を見送った学校もあるが、オンラインで実施した学校もある。課題として、以下が挙げられる。</p> <p>①学習の高度化 ②事後学習の充実 ③講師等の適切な人材の確保 ④オンライン開催実施前の事前調査</p> <p><課題への対応></p> <p>少子化対策として、即効性のある施策はないが、このような現状の中においても子どもが夢を持って生活できるように教育施策を推進することは重要な取組みであり、国の基本方針にも示されている。</p> <p>出産は人それぞれの価値観によって自由に選択することが前提であるが、家庭や子育てに夢や希望をもてるように次世代を担う子ども達が健やかに育ち、まちに愛着をもてる教育を推進し、将来的には本市で出産や育児することは少子化社会に対応することにつながる。</p> <p>上記①に対して ・引き続き、県教育委員会が作成している「キャリアノート」「キャリアパスポート」と本事業をリンクさせ、教科学習や教科横断的な学習でライフプランについて考えられるようにすることで学習の高度化を図る。特別活動の時間を要とし、本事業を進めていく上で、「キャリアノート」に自分の将来の夢やチャレンジしたいこと、家族や地域との関わりについて記入していく。1年間のまとめとして「キャリアパスポート」を作成し、次年度(小学6年生は中学校へ、中学3年生は進学先へ)へ引き継ぎを行う。このように意図的・継続的な取り組みを行うことにより、自分を見つめ、目標を立て、ライフプランについて短期的・中期的に考える実践の態度を養う。</p> <p>上記②に対して ・講師の方が保護者向けのプリントを用意していただき、啓発につながったという事例はあるが、事後学習まで見据えた実践は少ない。引き続き講師の話聞くだけでなく、家族など身近な人の話を聞き、学んだことを授業で交流することで、自分のライフプランについて発達段階に応じて考えられるようにする。</p>			

個別事業の内容

上記③に対して
 ・講師等は学校が人づてで探していることが多く適切な人材を確保することが難しいが、令和3年度は地域人材を活用した実践が報告され
 ている。引き続き、地域と密着している地域学校協働本部等を活用し、地域人材の発掘を行っていくことで、講師の質を高める。

上記④
 オンラインでの実施は、新型コロナウイルス感染症対策として有効ではあるが、対面ではないため、児童生徒の様子を見ながら話を進める
 ことが難しい。オンラインの実施にどうか児童生徒の事前調査等を踏まえ、実施形態や講演内容を検討していく。

<取組内容>
 「キャリア教育」
 子どもたち一人一人が、生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送るための基盤となる能力について、各学校段階
 間のつながりを重視しながら、意図的・継続的に育成を図る。自分のライフプランを短期的・中期的・長期的に考え、目標に向かって計画立
 てて行動していこうとする態度を育てる。

「道徳教育」
 人間として生きるための基本的な心構えや行動の仕方について、体験的・実践的な活動を通して、他者の考え方について対話を通して
 学ぶ。家族のありがたさ、家族の思いを感じることで、将来、家族をもったり子どもが生まれたりすることについても意識して生活を送ろうと
 する心情を養う。

「健康教育・安全教育」
 自身の健康・安全に気を付けるとともに、家族や友人といった身近な人たちの健康・安全についても考えられるようにする。そこから、地
 域全体などに広げていけるようにする。将来、家庭をもったときに家族を守る行動についても考える機会とする。

「人権教育」
 多様な価値観に対する理解を図り、共に豊かな生活を目指す態度を身に付けるようにする。人それぞれの生き方を尊重するとともに、自
 己の生き方について深く考えられるようにする。

尚、授業のプロセスは以下のとおり。
 ①事前学習
 各教科や総合的な学習の時間において、単元計画を立て、教育活動を展開していく。また、講師と事前打ち合わせを行い、授業のねらい
 を明確にしたうえで当日を迎えるようにする。(2回)。県教育委員会が作成している「キャリアノート」「キャリアパスポート」と本事業をリンク
 させ、教科学習や教科横断的な学習でライフプランについて考えられるようにすることで学習の高度化を図る。特別活動の時間を要し、
 本事業を進めていく上で、「キャリアノート」に自分の将来の夢やチャレンジしたいこと、家族や地域との関わりについて記入していく。

②教育実践
 講師の話聞き、地域の自然に触れながら自分のライフプランを短期・中期・長期的に考える(2回)

③事後学習
 講師の話聞いたことを踏まえ、単元のまとめを行う。また、新聞やレポートにまとめたり、報告会を行うなど、アウトプットできるようにす
 る。(2回)。講師の話聞くだけでなく、家族など身近な人の話を聞き、学んだことを授業で交流することで、自分のライフプランについて
 発達段階に応じて考えられるようにする。

実施校数：13校を想定（小学校11校、中学校1校、特別支援学校1校）

【次年度以降に向けた事業の方向性】
 新型コロナウイルスの影響もあり実施できていない学校もあるので、オンラインでの実施も検討し、引き続き、アンケートに基づいて、回数
 や対象について効果検証を行い、優良事例を市内で実践発表するなどして、事業の促進を図っていく。

【事業内容を検討する上で参考とした既存事業】
 兵庫型「体験活動」・兵庫県教育委員会発行「指導の重点」

【事業実施にあたっての留意点】
 本事業の実施にあたっては、実施要領記載の留意事項を踏まえて実施することとする。

少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)4	KPI項目	単位	目標値	現状値
	①「子育てがしやすいまちだ」と思う市民の割合	%	67 (R4)	61.9 (R2)
②合計特殊出生率			1.42 (R4)	1.16 (R元)
参考指標 ※(注)5	項目	単位	直近の実績	
	合計特殊出生率	%	1.16 (R元)	
	婚姻件数	件	1,130 (R2)	
	婚姻率	%	7.41 (R2)	
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)6	KPI項目	単位	目標値	現状値
	<アウトプット指標>			
	参加予定人数及びその達成率	人	5,361 (R4)	R3集計中
	<アウトカム指標>			
	ライフデザインの大切さについて考えた児童生徒の割合	%	70 (R4)	R3集計中
	妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識を得られた参加者	%	65 (R4)	R3集計中
講義等を友人等に薦めたいと思った参加者の割合	%	50 (R4)	R3集計中	
他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)7	兵庫県教育委員会が策定している「第3期ひょうご教育創造プラン」の重点テーマである「未来への道を切り拓く力の育成」に位置付ける「『生きる力』を育む教育」の取り組みの推進を図るため、本市においては、子どもたちが充実した人生を送る基盤を形成するキャリア教育及び「『命の大切さ』を実感させる教育プログラム」との活用と関連付けながら、本事業に取り組む。県とは、情報交換を密に行いながら事業の取り組みを発信するなど、連携を図る。			

民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)8	必要に応じ、NPO法人と連携を行う。また、人材探しとして地域学校協働本部と連携を行う。実施主体は市教育委員会とし、事前打ち合わせにより学校現場とNPO法人と共通理解を図り、実施する。報償費として謝礼金を支払うこととする。
委託契約の有無 ※優良事例の横展開支援事業又は重点課題事業を実施する場合のみ記載	無
上記「事業内容」について、「地方創生推進交付金」の申請の有無	無

(注)

1「対象経費支出予定額」には、本交付金の対象外経費を除いた対象経費支出予定額(補助率を乗じる前の額)を記入すること。また、金額の根拠となる資料(見積書等)を添付すること。

2「自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け」には、これまでの自治体における少子化対策の全体像及びその効果検証から浮かび上がった地域の実情及び課題と、それらを踏まえた、自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付けを記載すること。

3「個別事業の内容」には、本個別事業の具体的内容を記載すること。また、事業内容を検討する上で参考とした既存事業があれば、都道府県名又は市町村名、事業名を記載すること。

※個別事業を次年度以降も自立的に発展させるため、事業内容の末尾に必ず次年度以降に向けた事業の方向性を記載すること。

4「少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」については、自治体の少子化対策全体のKPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体は少なくとも令和4年度終了時点で、各自治体において効果検証を実施すること。

5「参考指標」には、各自治体の合計特殊出生率、婚姻件数、婚姻率を記載すること。

6「個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」には、自治体における少子化対策の全体像の中での本個別事業の位置付けを踏まえ、KPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体において効果検証を実施すること。

※過去に関連する事業を実施している場合は、過去に設定したKPIを踏まえたKPIを設定すること。

※結婚支援センター事業を実施する場合は、参考として直近年度の「会員登録数」「引き合わせ成立者数」「カップル成立組数」「成婚数」を記載すること。

7「他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方策」には、本個別事業を他の都道府県や市町村と連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記載すること。

8「民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を民間事業者との連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記入すること。